

MWC 2024はAI搭載やウェアラブルに注目

◆MWC 2024がスペインバルセロナで開催された

2024年2月26日から4日間、スペインのバルセロナでMWC 2024(旧称:Mobile World Congress)が開催された。話題の中心は、生成AIを取り込んだ製品やさまざまなコンセプトのスマホであった。VR・ARデバイスは、ますます軽量化が進み、社会実装が近づいている。また、無線基地局装置のオープン化を目指すオープンRANは、前年に引き続き、NTTドコモや楽天シンフォニーなど日本の企業が売り込みをかけている (WA-340-10参照)。さらに今回はKDDIも初出展し、[Starlink 衛星とスマホの直接通信サービス](#)の年内提供や[Digital Twin with AI](#) (AIで強化されたメタバース・Web3サービス「αU」) など、6つのコンセプトを紹介した。

◆NECはスマートフォン上でも動く大規模言語モデルを開発中

NECは24年春から大規模言語モデル (LLM) 「cotomi(コトミ)」を展開する。パラメーター数がOpenAIの「GPT-3」と比べて1/13と少なく、高速に動作する。

これまでパラメーター数はLLMの賢さの指標の1つとされていたが、学習データを厳選することで、少ないパラメーター数でも同等の性能を確保できることが確認されてきている。「cotomi」はいわゆる「小さいLLM」で、NTTの「tsuzumi」と同じ思想である (WA-350-13参照)。

NECが開発する小さいLLMとQualcommの半導体を組み合わせ、データセンターと通信することなく、デバイス内部でLLMを動作させる。例えば、「今夜のごはんは何がいいかな？」とユーザーがAIにチャット上で尋ねると、カレンダーの予定やユーザーの好みなどをふまえて回答する。

Qualcommは5G モデムのSnapdragon X80や開発者向けの[Qualcomm AI Hub](#)などを発表していた。Snapdragon X80は、Qualcommの第7世代5Gモデムおよび専用のTensorコアを備えた第2世代AIモデムである。AIは、「5G AI Suite Gen 3」を新たに搭載しており、AIを使ってミリ波信号の範囲拡大や、位置情報の正確性向上を図っている。X80はすでにサンプル出荷されており、24年後半にはOEM製品が出荷される予定である。

◆Motorolaとサムスのスマートフォンコンセプトモデルはウェアラブル

23年のMWCで巻き取り式画面のスマホを展示したMotorola (WA-340-10) は、24年のスマートフォンコンセプトモデルとして、腕時計のように手首に巻き付けられるスマートフォンを発表した (図.1)。一般的な縦長のスマートフォンとしても機能するが、背後に曲がるため、さまざまな用途にあわせて使用することができる。残念ながらこの製品はコンセプトモデルのため、販売の予定はない。

同じく、サムスンも、手首に巻き付けられるスマートフォン「Cling Band」を発表している (図.2)。フレキシブルなOLEDスクリーンを搭載しており、用途に応じてスマートフォンとしてもスマートウォッチとしても使用できる。



図. 1 Motorola のコンセプトモデル

出典：CNET <https://www.youtube.com/watch?v=lv9iy8Zl9Jk>



図.2 「Cling Band」

出典：CNET Japan

◆サムスは指輪型健康データ測定ツール「Galaxy Ring」を発表

サムスは年内発売予定の「Galaxy Ring」を発表した (図.3)。指に装着すれば、内部に搭載された複数のセンサーで心拍数や体の動き、睡眠状況などのバイタルデータを記録できる。指に装着するタイプのウェアラブルデバイスは、重さが軽い (リングの大きさによって変わるが、2.3g~2.9g) ので終日装着していても苦にならない。



図.3 「Galaxy Ring」

出典：CNET Japan

1回の充電で最長9日間、連続使用できる。最も効果を発揮すると思われるのが、睡眠の計測で、心拍数、呼吸数、夜間の活動量、入眠までの時間という4つの指標で睡眠を把握することができる。ブラックとゴールド、シルバーの3色、サイズは9種類用意する。

サムスはスマホ用のデジタルヘルスアプリとして「Samsung Health」アプリを提供している。デジタルヘルスを強化する方針で、月間6,400万人を上回るアクティブユーザ向けに、ヘルスケア製品として販売を計画する。

スマホやスマートウォッチ、スマートリングの間は、ボーダレスだ。【成田誠】